

場所・面積

滋賀県蒲生郡日野町、175 ha

管理目的

- ・ サイト内に占める人工林の割合が高いため、経済林としての機能向上を図りつつ、人工林の間に残存する広葉樹林の要素を守り育て、全体として水源涵養機能、生物多様性の高い森を目指す。
- ・ 広域的にシカ食害の激しい地域であり、不嗜好種による法面保護、下層植生の充実を図ると共に、将来を見据えて防鹿対策を併用した多様な植物相の保全を目指す。

サイト概要

- ・ 蔵王ダム南側に位置し、日野川に流下する一帯の流域が申請サイトとなっている。おおむね東西に走る稜線から北側に派生する尾根、谷よりなる、東西に長い北向きの斜面地である。サイトは東西2箇所に分かれて存在するが、東側のサイトが大半の面積を占める。
- ・ 標高は、263m～631mであり、西部が低く東部が高い地形となっている。
- ・ サイトの半分近くが30度以上の傾斜地で、さらにそのうち約8%が40度以上の急傾斜地となっている。
- ・ サイトの中央部から東側ほぼ全域が保安林の指定を受けている。
- ・ サイト西部を含む山地一帯が自然公園地域の指定を受けている。またサイト西部南側の山地一帯が鳥獣保護区の指定を受けており、サイトの一部が含まれている。
- ・ 全域において人工林（ヒノキ群落・スギ群落）が広く分布する。二次林ではアカマツ－モチツツジ群集が分布する。ごく一部の谷筋に自然植生に近いと考えられるケヤキ群落が分布する。



土地利用の変遷

1947年、1975年、2006年の空中写真によると、

1947年：低林状態のアカマツ林が広く分布している。

1975年：里山としての利用がなくなり、造林事業も落ち着いた時代の写真であり、植林は若く、はげ山も目立つ。

2006年：アカマツ林とヒノキ・スギ植林の分布が確認できる。

サイト周辺の環境

滋賀県蒲生郡日野町の中山間地域に位置する。申請サイト周辺は、南東部にサイト内と同様にスギやヒノキの植林地が広がり、サイト北西部および西部にはサイト内にもみられるモチツツジ－アカマツ群集がある。サイトの北側には蔵王ダムがあり、さらにその下流の谷戸は水田として利用されている。

アピールポイント

- ・ 管理計画策定、管理計画の実行、モニタリングの実施など、各工程で各分野の専門家が関わり、連携することで、場の保全を担保している。
主な主体・・・管理計画策定：サントリーホールディングス株式会社、株式会社里と水辺研究所（環境コンサルティング会社）、
管理計画の実行：住友林業株式会社、モニタリング実施：株式会社里と水辺研究所、住友林業緑化株式会社 など
- ・ 地元の生産森林組合の意識、技術力が高く、行政も森林整備やシカ害に対する施策を積極的に展開しており、中長期的に良質な森林管理とその継続が期待できる。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

全域において人工林が広く分布し、定期的な間伐が実施されていた。人工林の間に残存する広葉樹林の要素を守り育てることで、全体として水源涵養機能や生物多様性の高い森を目指し管理を行っている。ただし広域的にシカ食害がみられることから、不嗜好種による法面保護や下層植生の充実を図っている。またハチクマ、サシバ等の猛禽類やオオアカゲラやサンショウクイ等の鳥類の生息地となっている。

【主な植生】

全域において人工林（ヒノキ群落・スギ群落）が広く分布する。二次林ではアカマツ－モチツツジ群集が分布する。ごく一部の谷筋に自然植生に近いと考えられるケヤキ群落が分布する。

【確認された主な動植物】

ヒノキ群落：ヒノキ、ヒサカキ、アセビ、シキミ、ヤワラシダ、イワガラミ、タチツボスミレなど 【出現種数】100㎡あたり26～44種

スギ群落：スギ、ヤブツバキ、シキミ、シロダモ、カマツカ、ヤブムラサキ、ヤワラシダ、イワガラミ、シシガシラなど 【出現種数】100㎡あたり24～31種

アカマツ－モチツツジ群集：アカマツ、コナラ、アオハダ、リョウブ、ネジキ、ソヨゴ、カマツカ、アズマザサ、ヤブコウジなど 【出現種数】100㎡あたり26～42種類

ケヤキ群落：ケヤキ、ウワミズザクラ、リョウブ、エゴノキ、イロハモミジ、ムラサキシキブ、シロダモ、キヨスミヒメワラビ、ナガバタチツボスミレ 【出現種数】100㎡あたり24種

確認された鳥類：ハチクマ、サシバ、オオアカゲラ、サンショウクイなど



写真の撮影年月：2013年6月
写真の説明：ヒノキ群落



写真の撮影年月：2013年6月
写真の説明：アカマツ－モチツツジ群集

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

申請サイトは淀川の集水域に位置しており、淀川に流れる河川水を涵養している。さらに、「サントリー株式会社 近江エージングセラー」を含む、湖東地方の一部の地下水を涵養している。また、樹林の存在による土砂災害の抑制など、防災・減災に貢献しており、それぞれ供給・調整サービス提供の場となっている。以下【主な植生】に示す在来種を中心とした植物からなる植生が分布している。またハチクマ、サシバ等の猛禽類やオオアカゲラやサンショウクイ等の鳥類の生息地となっている。

【主な植生】（価値（3）と同様）

全域において人工林（ヒノキ群落・スギ群落）が広く分布する。二次林ではアカマツ－モチツツジ群集が分布する。ごく一部の谷筋に自然植生に近いと考えられるケヤキ群落が分布する。

【確認された主な動植物】

●植生

ヒノキ群落：ヒノキ、ヒサカキ、アセビ、ヤワラシダ、イワガラミ、タチツボスミレなど

スギ群落：スギ、ヤブツバキ、シキミ、シロダモ、カマツカ、ヤブムラサキ、ヤワラシダ、イワガラミ、シシガシラなど

アカマツ－モチツツジ群集：アカマツ、コナラ、アオハダ、リョウブ、ネジキ、ソヨゴ、カマツカ、アズマザサ、ヤブコウジなど

ケヤキ群落：ケヤキ、ウワミズザクラ、リョウブ、エゴノキ、ムラサキシキブ、シロダモ、キヨスミヒメワラビ、ナガバタチツボスミレなど

●鳥類

ホトトギス、サンショウクイ、モズ、ヤマガラ、ヤブサメなど
（猛禽類）

ハチクマ：オスの成鳥が2回確認され、周辺にて繁殖している可能性も考えられる。

サシバ：サイトに隣接する場所でのべ8回観察された。



写真の撮影年月：2013年8月

写真の説明：ケヤキ群落



写真の撮影年月：2021年7月

写真の説明：ハチクマ雄

生物多様性の価値

価値（9）既存の保護地域又は自然共生サイト認定区域に隣接する若しくはそれらを接続するなど、緩衝機能や連続性・連結性を高める機能を有する場

【場の概況】

サイト西部を含む山地一帯が自然公園地域に指定されており自然性が高い。またサイト西部南側の山地一帯が鳥獣保護区の指定を受けており、サイトの一部がこれに含まれている。

【主な植生】

全域において人工林（ヒノキ群落・スギ群落）が広く分布する。二次林ではアカマツ－モチツツジ群集が分布する。ごく一部の谷筋に自然植生に近いと考えられるケヤキ群落が分布する。詳細は価値（3）を参照のこと。

【隣接・接続する保護地域等】

● 鈴鹿国定公園

- ・サイトの東側の山塊が南北に広く鈴鹿国定公園に指定されている。加えて、サイトを含む山塊の一部が飛び地のようにこの公園に含まれている。
- ・サイト内の西部（サイト面積のうち約44%）が鈴鹿国定公園に含まれている。

● 都道府県指定鳥獣保護区

- ・サイトの西部南側の山地一体が都道府県指定鳥獣保護区の指定を受けており、サイトの一部が含まれている。

【緩衝機能や連続性・連結性の機能】

サイト北側は蔵王ダムおよび水田として人に利用されており、当該サイトは南側に存する保護地域等との緩衝機能を果たしている。



写真の撮影年月：2013年8月
写真の説明：サイト内の二次林



写真の撮影年月：2021年7月
写真の説明：サイト周辺で確認されたサシバ雄

サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容

【管理計画の内容】

本資料p. 1に記載した管理目的（全体ビジョン）に則り、人工林および二次林別に以下の管理目標のもと管理を行う。

●人工林

人工林の将来像は「資源循環林」と「針広混交林」とする。
生産林としての育成に向けた立地、作業道からのアクセス性のよい（作業道からの距離50m～100m）エリアを資源循環林に、生産林の育成に向かない立地、あるいは作業道から100mを超えるエリアを針広混交林として育成する。

●二次林

松枯れの進行するアカマツ－モチツツジ群集等は、夏緑広葉樹林への林相転換を図り、生物多様性が高く、持続性のある森林をめざす。
常緑広葉樹が密生する二次林では遷移を進行させつつ、将来の林冠要素や下層植生の導入を行い、生物多様性の高い照葉樹林を目指す。
残存するシカ嗜好植物等、多様なフロラの保全を図り、将来の生物多様性の「核」とする。

<管理計画の内容>

◆管理1 地域性系統苗の栽培と植栽

- ・管理(実施)箇所：植栽箇所
- ・実施時期：2016年（初年度）～現在。今後も適宜実施予定。
- ・管理内容：本天然水の森が含まれる淀川水系内で採取した種子から苗木を生産し、防鹿柵内（レフュージア）に植栽。

◆管理2 シカ不嗜好性の強い植物の導入等

- ・管理(実施)箇所：サイト内辺縁部
- ・実施時期：2015年（初年度）～現在。今後も適宜実施予定。
- ・管理内容：ミツマタおよびシダ類を導入および試験植栽。

モニタリング計画の内容

【モニタリング対象】

- ①「管理1」、「管理2」、「管理4」、「管理7」で植栽した植物
- ②「管理3」、「管理6」のレフュージア内に植栽した植物と自然実生の一部
- ③「管理5」の新設作業道およびその周囲の間伐林
- ④鳥類（猛禽類：特にフクロウ）

【モニタリング場所】

- ①「管理1」、「管理2」、「管理4」、「管理7」実施箇所
- ②「管理3」、「管理6」のレフュージア内外（対象区）
- ③新設作業道開設箇所およびその周囲の間伐実施箇所
- ④フクロウ向け巣箱設置箇所（2023年5月現在2箇所）

【モニタリング手法】

- ①植栽した植物の消長や生育状況などを確認する
- ②レフュージア内において植生調査を実施し、植生保護柵内の植生回復の状況を把握する
- ③巡視により作業道の崩壊や間伐林の著しい土壌流亡がないか確認する
- ④営巣時期に巣箱を巡視する

【実施時期及び頻度】

- ①・②・③実施後から3年間に2回、その後適期に実施
- ④原則的に毎年営巣の可否確認

サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容	モニタリング計画の内容
<p>◆管理3 レフュージアの設置</p> <ul style="list-style-type: none"> 管理(実施)箇所：二次林を対象とした6箇所 実施時期：2013年（初年度）～現在。今後も適宜実施予定。 管理内容：シカの嗜好性植物を将来的に守るため、シカ柵を設置することでレフュージア（避難地）を設置。 <p>◆管理4 路肩の緑化</p> <ul style="list-style-type: none"> 管理(実施)箇所：サイト内北東部および西部 実施時期：2012年（初年度）～現在。今後も適宜実施予定。 管理内容：シカ不嗜好種による幹挿し試験、苗木植栽、忌避剤の散布を実施。 <p>◆管理5 間伐による資源循環林の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 管理箇所および実施時期： 管理内容：①間伐、②壊れにくい作業道の開設。 <p>◆管理6 落葉広葉樹林への林相転換</p> <ul style="list-style-type: none"> 管理(実施)箇所：防鹿柵内 実施時期：2016年（初年度）～現在。今後も適宜実施予定。 管理内容：落葉広葉樹林を目標植生とするレフュージア（防鹿柵）内における地域性系統の落葉広葉樹苗木の植栽。林床にササ類の優占するレフュージアにおけるササ類の刈り取りは、苗木や実生が育つまでの間は適宜実施。 <p>◆管理7 ナラ枯れに罹患しない林冠木の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 管理(実施)箇所：植栽箇所 実施時期：2016（初年度）～現在。今後も適宜実施予定。 管理内容：落葉広葉樹林を目標植生とするレフュージア（防鹿柵）内において、将来の林冠木たる種の植栽および保全。またレフュージア（防鹿柵）外の人工林林床において、将来の林冠木として不嗜好種であるウリハダカエデ、オオバアサガラ苗木の植栽。 	<p>【実施体制】</p> <p>管理作業：住友林業株式会社 モニタリング：株式会社里と水辺 研究所ほか</p>